「新大分スタンダード」による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導案（略案）例

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ①学年・組 | ②職名・授業者氏名 | ③教科 | ④ペアでの話合い活動 | ⑤グループでの話合い活動 |
| ６年１組 | 教諭・日田　太郎 | 社会 | 有 ・ 無 | 有 ・ 無 |
| ⑥単元名(題材名) | 縄文の国から古墳の国へ |
| ⑦本時のねらい | 古墳時代に国土が統一されたことを、古墳の規模やその出土品、古墳の広がりを関係付けることによって、大和朝廷が５～６世紀頃までに九州地方から東北南部までの豪族を従えていったことを理解できるようにする。 |
| ⑧本時の評価規準 | 【知識・理解】大和朝廷が５～６世紀ごろまでに国土を統一したといえる理由を、資料から分かることを結びつけて理解している。〔ノート〕 |
| ⑨展開 | めあて | 資料をもとに古墳時代の国土はどの地域が統一したのか考えよう |
|  | 課　題 | 近畿のどこかが国土を統一したことがわかるのはなぜか |
| 手立て | 「Ｃ:努力を要する」状況の児童への手立て・ワカタケルの鉄剣の出土場所を全員で確かめる。・九州・近畿・関東の３つに絞り、手紙にある東・西・海を渡って行ける場所はどこかを考えるように助言する。 |
| 「特別な支援等の配慮を要する」児童への手立て・地図から必要な情報を見つけ出すことが苦手な児童に対して、地図を拡大して見る範囲を限定し、視点を明確にする。 |
| まとめ | 刀剣が異なる古墳から出土したことから、大和朝廷が広い範囲を支配し、国土を統一したことがわかる。 |
| 振り返り | ・奈良盆地を中心とする大和地方により大きな力をもつ国が現れた（大和朝廷）。・この頃から、日本という形がはっきりしてきたのではないだろうか。・発掘された資料を読み解くことで、その当時の日本の様子を知ることができる。 |
| **板書計画**　　古墳時代の国土はどの地域が統一したのか調べようめあて　ワカタケル大王の手紙ワカタケル大王と二つの離れた地域の古墳（教科書p.22）拡大図大きな古墳の分布図（資料集を基に作成）大仙古墳の写真　　　　　   　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・埼玉と熊本から同じ名前の　　・東に55国、西は66国、　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　鉄剣が出土した。　　　　　　　→日本の中心付近　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・遠くまでその王の支配が　　　・海をわたって95国（前時のまとめ）王や豪族の力の大きさがわかる。　　　　　　　　　・九州から東北まであった。　　届いていたことが分かる。　　　→九州　　　　　　　　　・近畿地方に多い。刀剣が異なる古墳から出土したことから、大和朝廷が広い範囲を支配し、国土を統一したことがわかる。・奈良盆地を中心とする大和地方～（わかったこと）・この頃から、日本という形が～（考えたこと）・発掘された資料を読み解くことで～（学び方）まとめ課 題ふり返り　　　　　　　　　近畿のどこかが国土を統一したことがわかるのはなぜか |

考え

・遠くから発見されたのに同じ王の名前が書かれた刀剣が発見されたから

・届いていたことが分かるから

言葉

大和朝廷について

・4世紀ごろから大和地方にあった国の政府

・中心になった人物を大王という

・九州から東北南部までしたがえた

・漢字や仏教を取り入れた